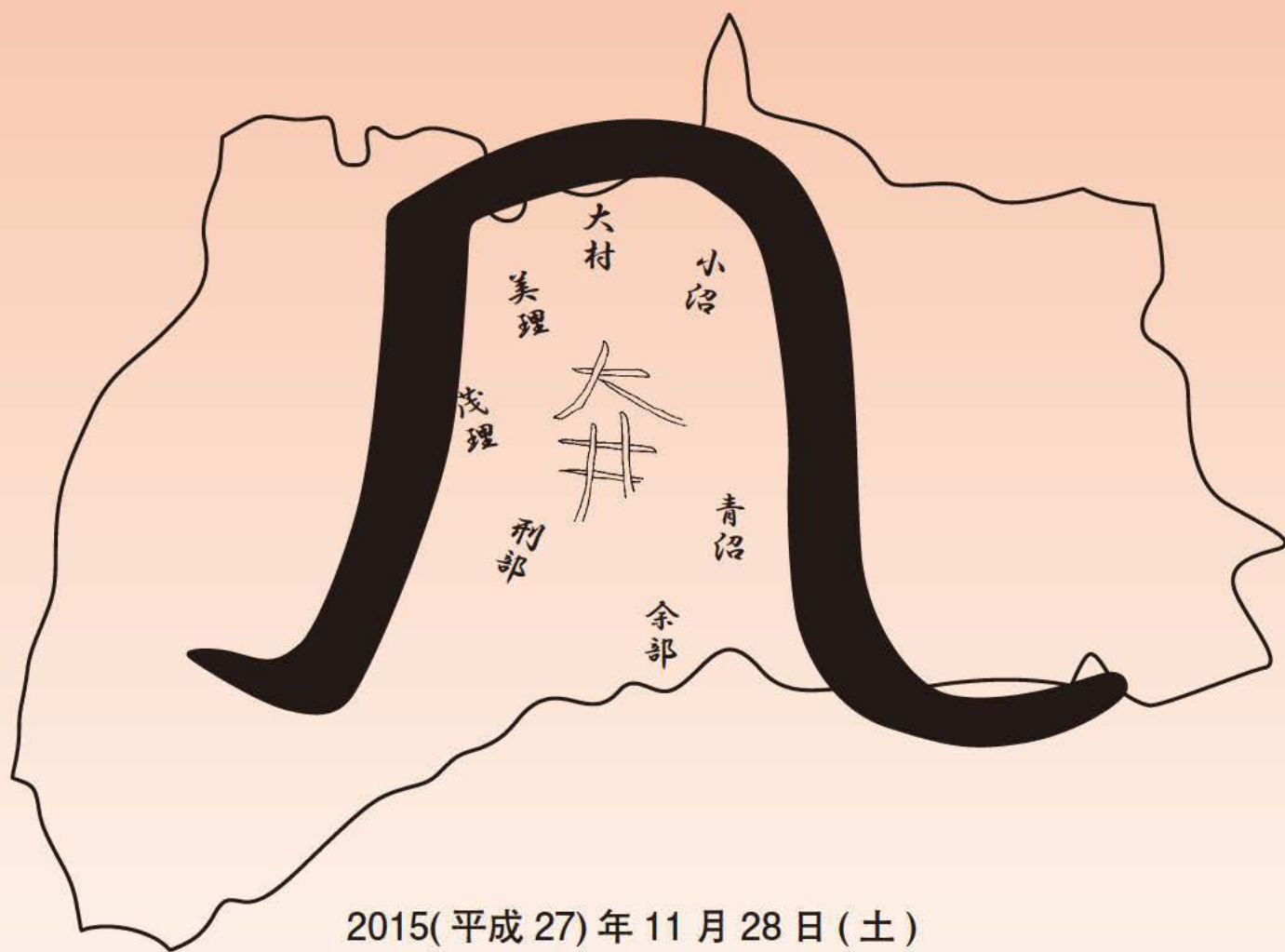


中部横断自動車道建設に伴う発掘調査成果報告会

## 掘るしん in 佐久

# のぞいてみた古代の佐久



2015(平成27)年11月28日(土)

会場 佐久市佐久平交流センター

主催 長野県埋蔵文化財センター

共催：長野県教育委員会 協力：長野県立歴史館

## 次 第

10：30 開会

10：40 基調報告 第5会議室

報告1 「佐久市西一里塚遺跡群」 長野県教育委員会 櫻井秀雄

報告2 「佐久市森平遺跡」 長野県埋蔵文化財センター 水澤教子

報告3 「佐久市西近津遺跡群」 長野県埋蔵文化財センター 柳澤 亮

報告4 「佐久市周防畑遺跡群」 長野県埋蔵文化財センター 上田 真

(休憩)

13：00 講 演 第5会議室

「信州人の一万年 - 骨から歴史をみる -」

京都大学名誉教授 茂原信生氏

(休憩)

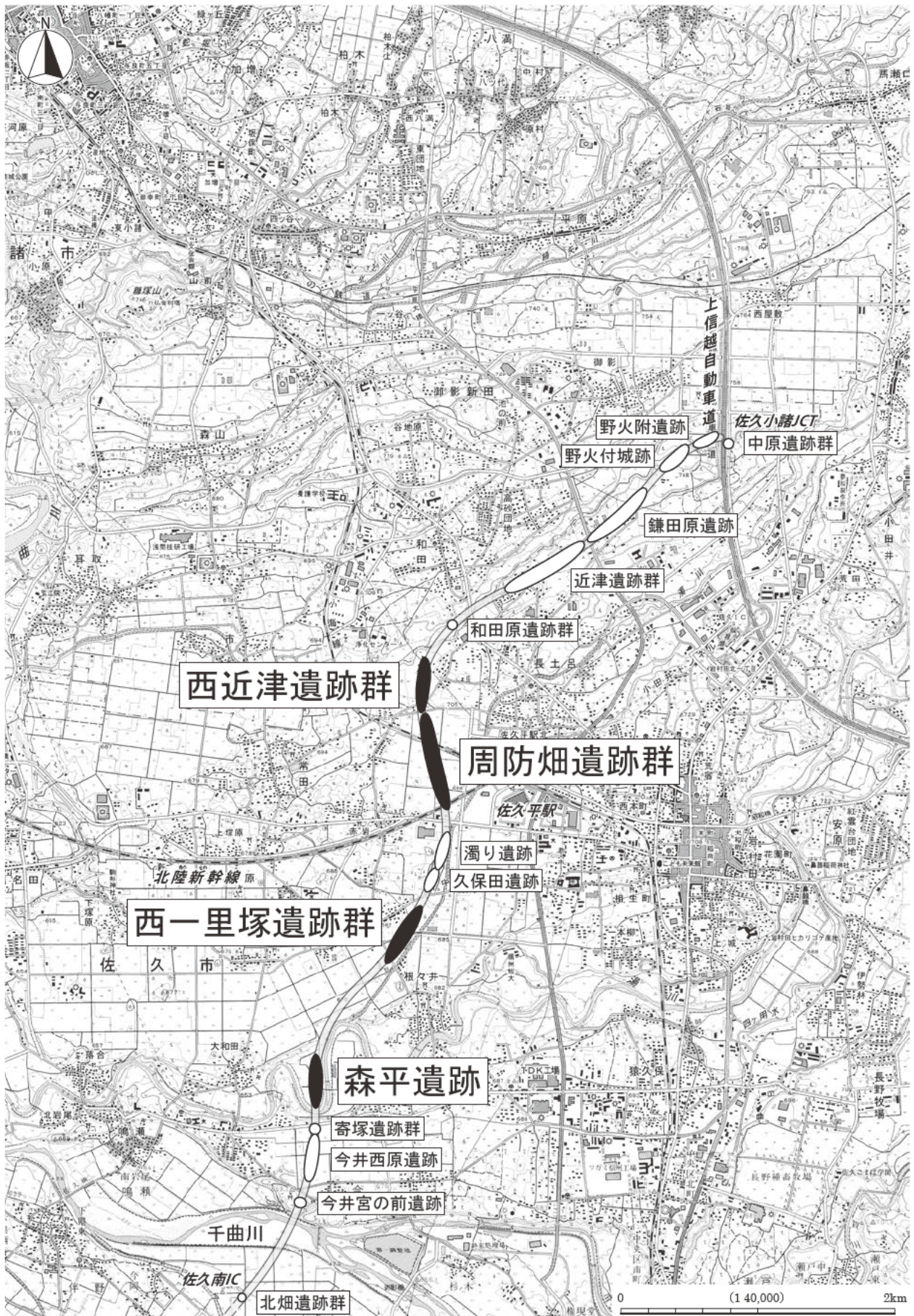
14：30 シンポジウム 第5会議室

パネリスト：茂原信生氏、基調報告者

15：30 閉会

資料展示 10：00～13：00、14：00～16：00 第4会議室



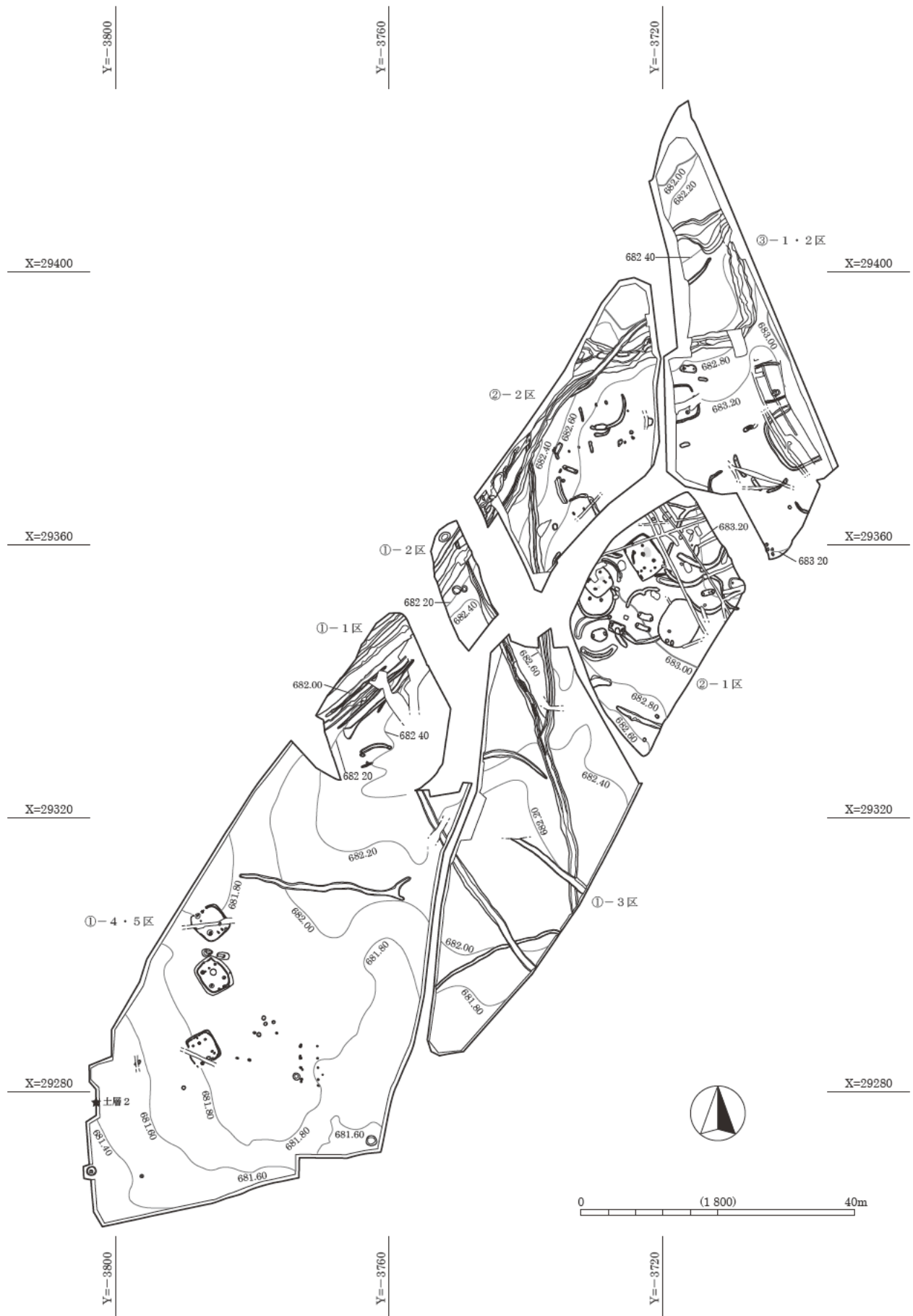


中部横断自動車道（佐久小諸 JCT～佐久南 IC）と調査対象遺跡

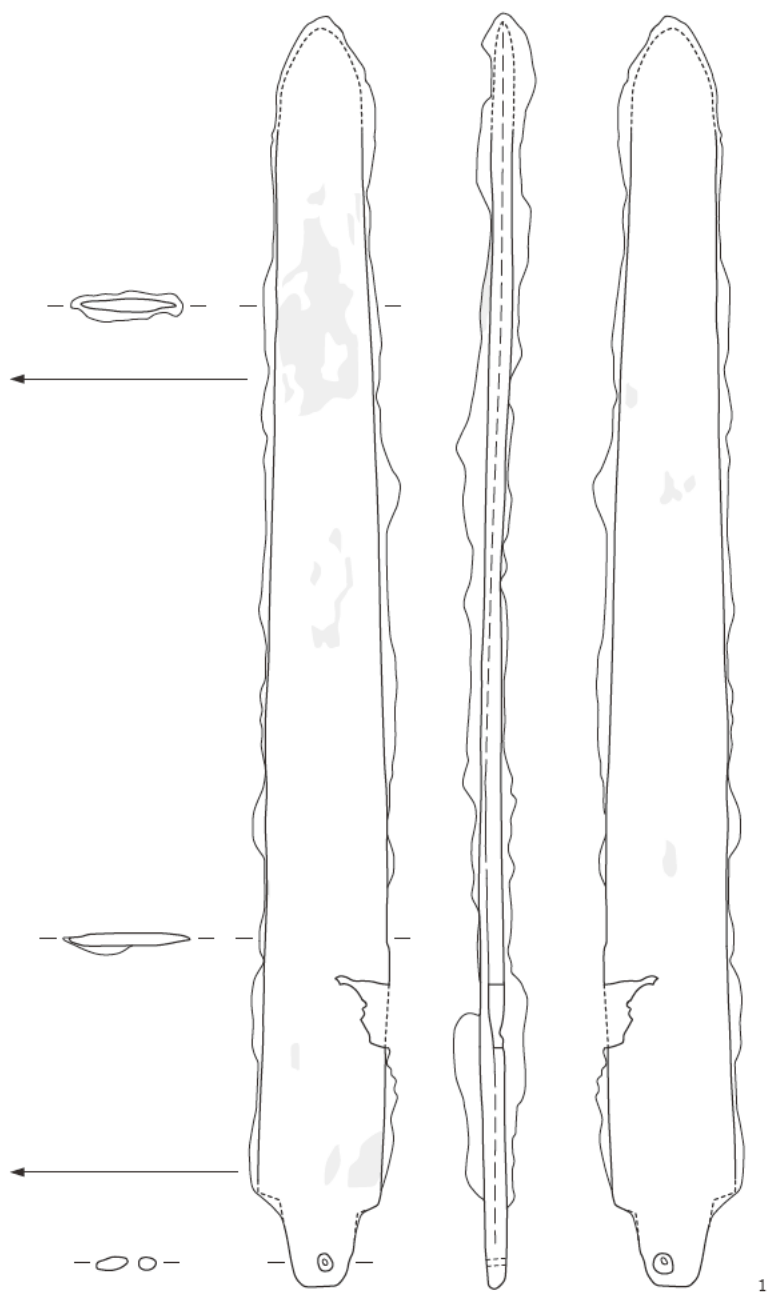


## 西一里塚遺跡群の調査成果

- 1 所在地 佐久市岩村田字西一里塚 1614-2 ほか
- 2 主な時代 弥生時代、平安時代～近世以降
- 3 主な遺構 弥生時代(竪穴住居跡13軒、掘立柱建物跡1棟、円形周溝墓・方形周溝墓25基、木棺墓2、土器棺墓6基、溝跡45条、土坑89基、遺物集中3箇所)  
平安時代以降(水田跡4面、溝跡5条、土坑1基)ほか
- 4 主な遺物 弥生土器、須恵器、土師器、陶磁器、石鏃、敲石、砥石、玉類、人形土器、木製品(農具、建築部材、樋)、鉄製品(鉄釧、鉄剣)
- 5 特記事項 円形周溝跡から鉄剣が、木棺墓からは鉄釧が出土。低地では水田跡4面を検出。人形土器が出土。
- 6 成果要約 遺跡は、佐久平北部に特徴的な田切り台地が消滅する地域にあたり、流れ山と呼ばれる残丘が点在するなかを、微高地と低地がひろがる地形にある。西一里塚遺跡群では微高地で弥生時代中後期の集落と墓が展開する。流れ山でも弥生時代後期から古墳時代初頭の集落が営まれていた。低地では平安時代頃から近世の水田跡が4面、被覆砂層の下から検出された。弥生時代の調査面からは溝跡などがみつかったのみであり、水田としては利用されていなかったことがわかった。遺物は、円形周溝墓の主体部から鉄剣が、木棺墓から鉄釧が出土した。木製品は平安時代以降のものに加えて、佐久地方では出土事例が少ない弥生時代のものも認められた。農具(鋤身、鋤柄、木鎌等)や建築部材(破風板、床材、壁材、横架材等)などである。鋤身では曲柄にも直柄にも装着できる珍しい両用タイプが出土した。他にも全体像がわかる人形土器も発見されるなど希少な遺物の出土が多くみられた。このように佐久地方では低地の調査事例が少ないなかで、木製品の出土や水田が検出できたことなどの成果をあげた。



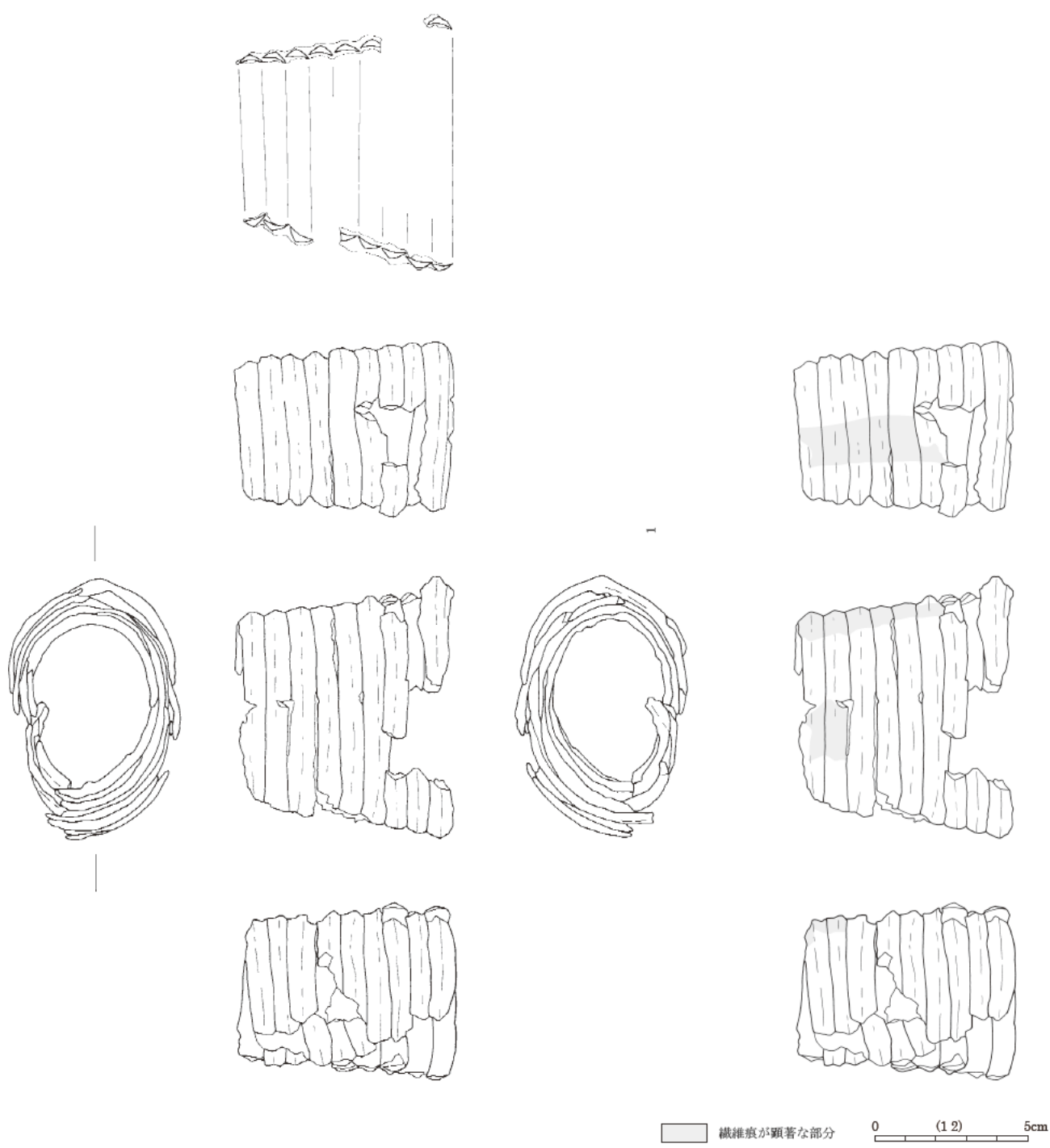
①～③区 第3調査面 遺構配置図



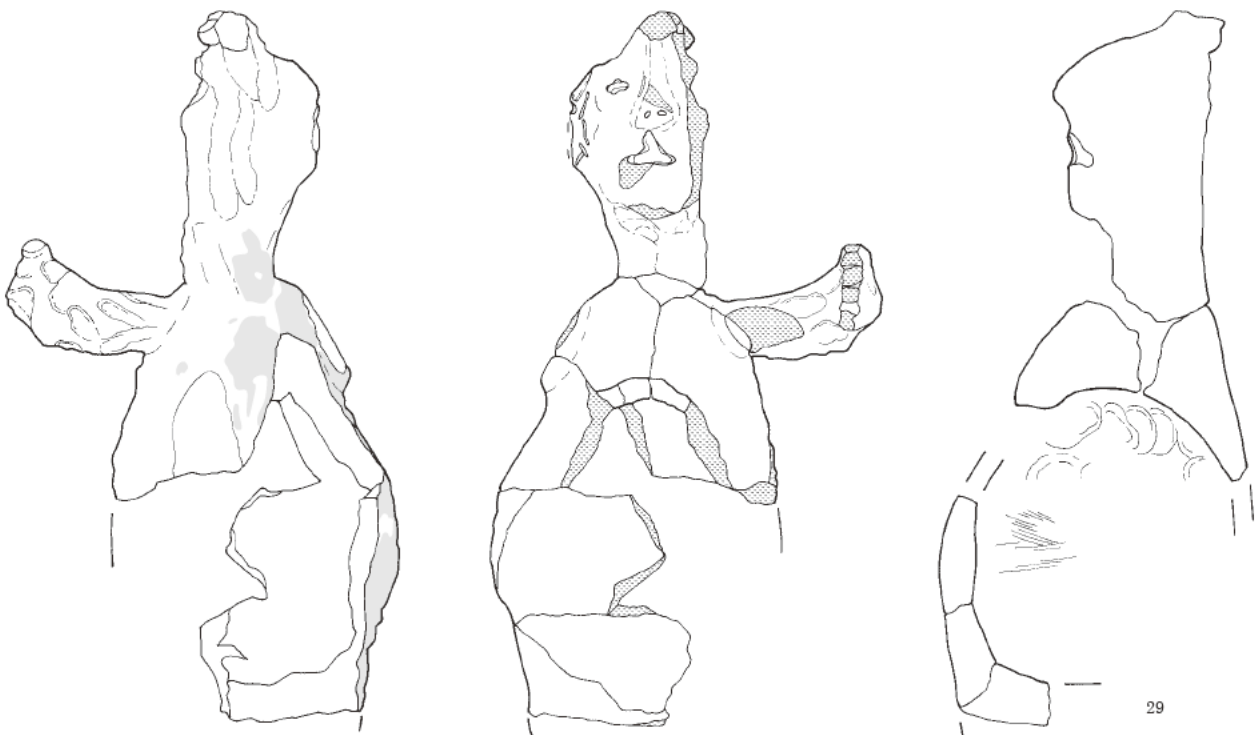
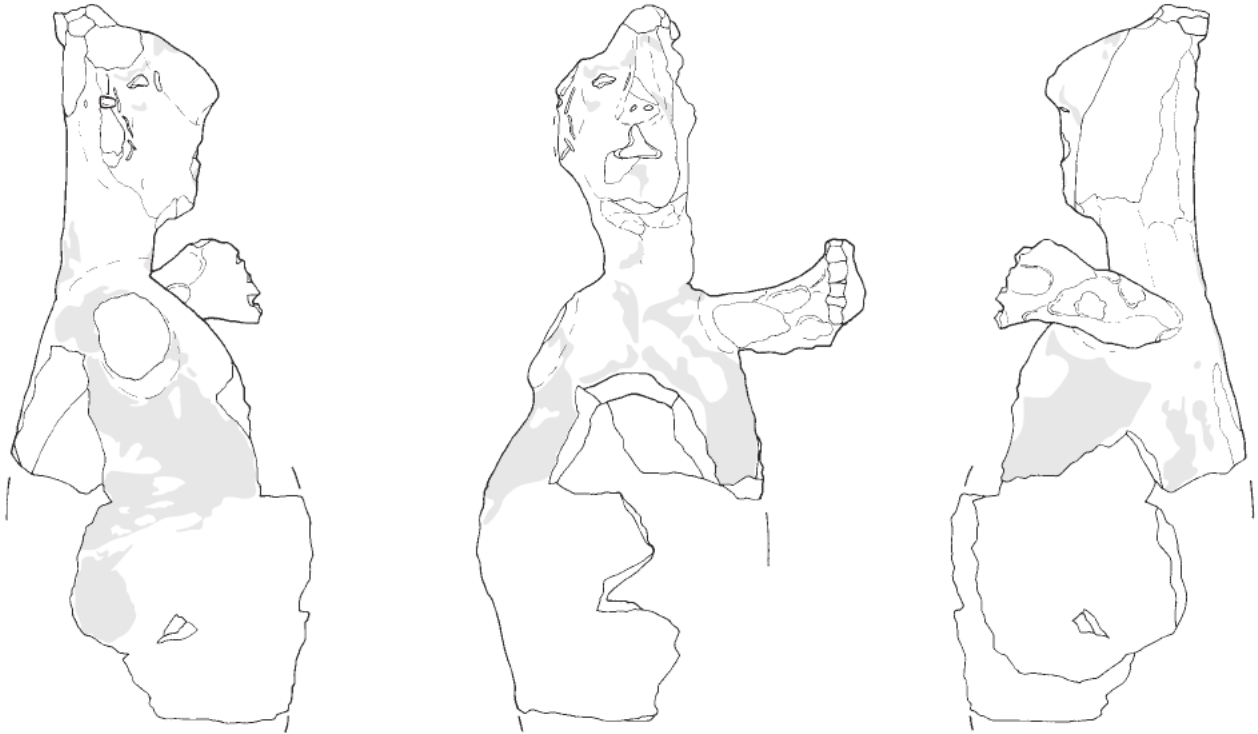
木質の顕著な部分

0 (1 2) 5cm

SM14出土 鉄剣



SM07出土 鉄釧



赤彩
  欠損・剥落

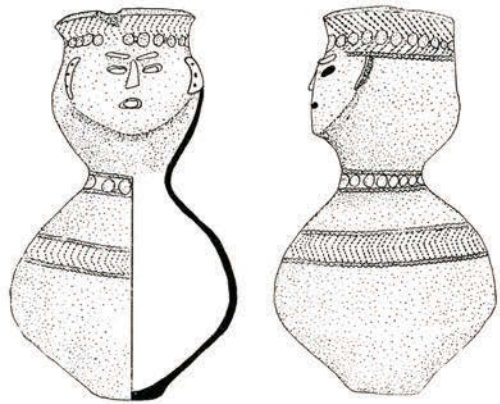
頭部 ①-2区  
 腕部 SD37  
 胸~底部 ②-2区

29

0 (13) 10cm

人形土器

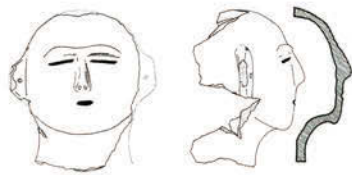




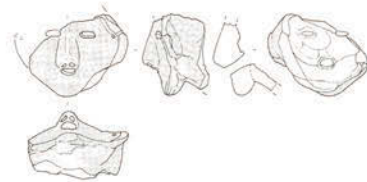
神奈川県 上台遺跡例



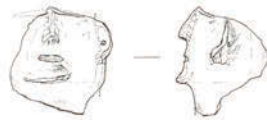
千葉県 三嶋台遺跡例



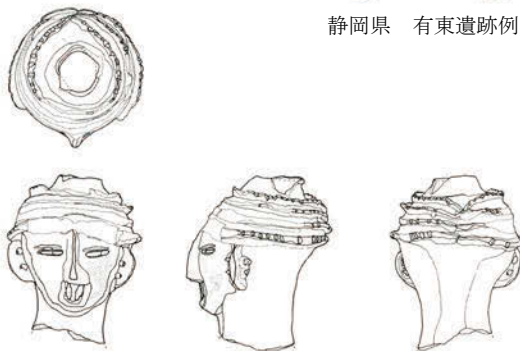
神奈川県 ひる畑遺跡例



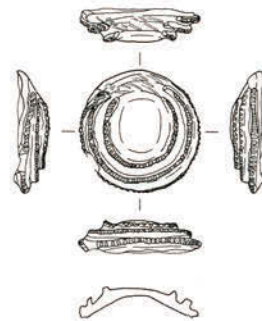
佐久市 中佐都小学校所藏品例



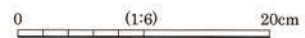
静岡県 有東遺跡例



佐久市 西一本柳遺跡No. 1 例



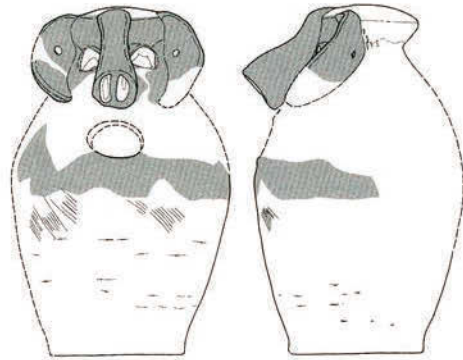
佐久市 西一本柳遺跡No. 2 例



人形土器A類

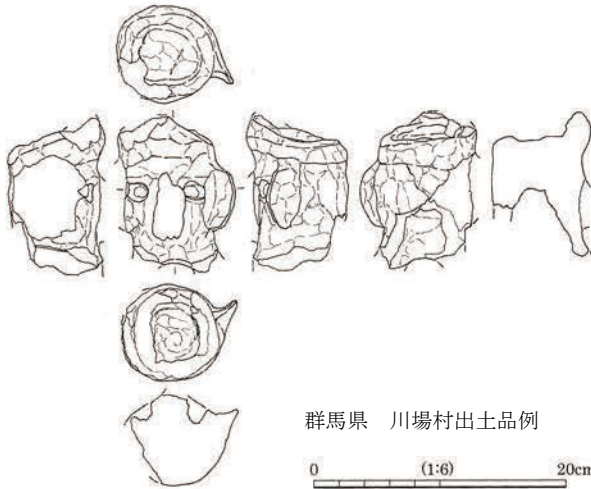


群馬県 有馬遺跡例



群馬県 小八木志志貝戸遺跡例

0 (1:6) 20cm



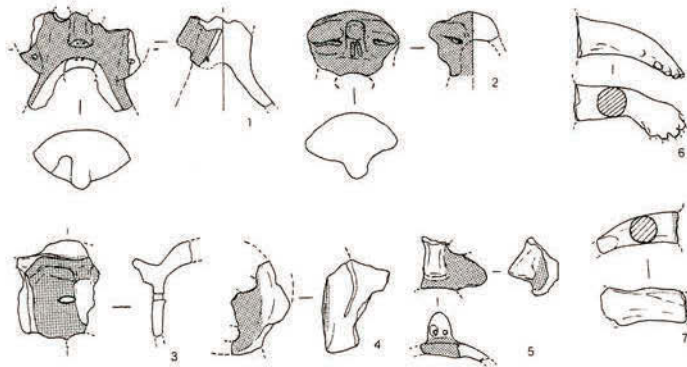
群馬県 川場村出土品例

0 (1:6) 20cm



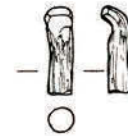
群馬県 有馬条里遺跡No. 1 例

0 (1:4) 10cm



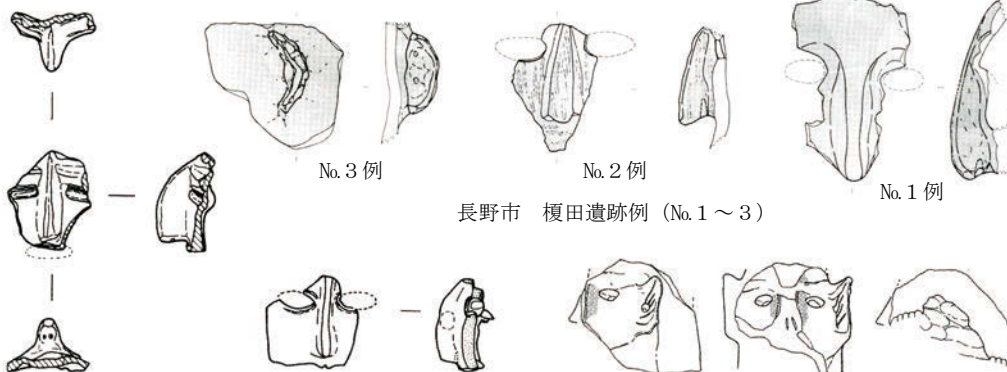
群馬県 川端遺跡例 (No. 1 ~ 7)

0 (1:6) 20cm



群馬県 有馬条里遺跡No. 2 例

0 (1:4) 10cm



No. 3 例

No. 2 例

No. 1 例

長野市 榎田遺跡例 (No. 1 ~ 3)

松原遺跡 SD1027 例

百瀬遺跡例

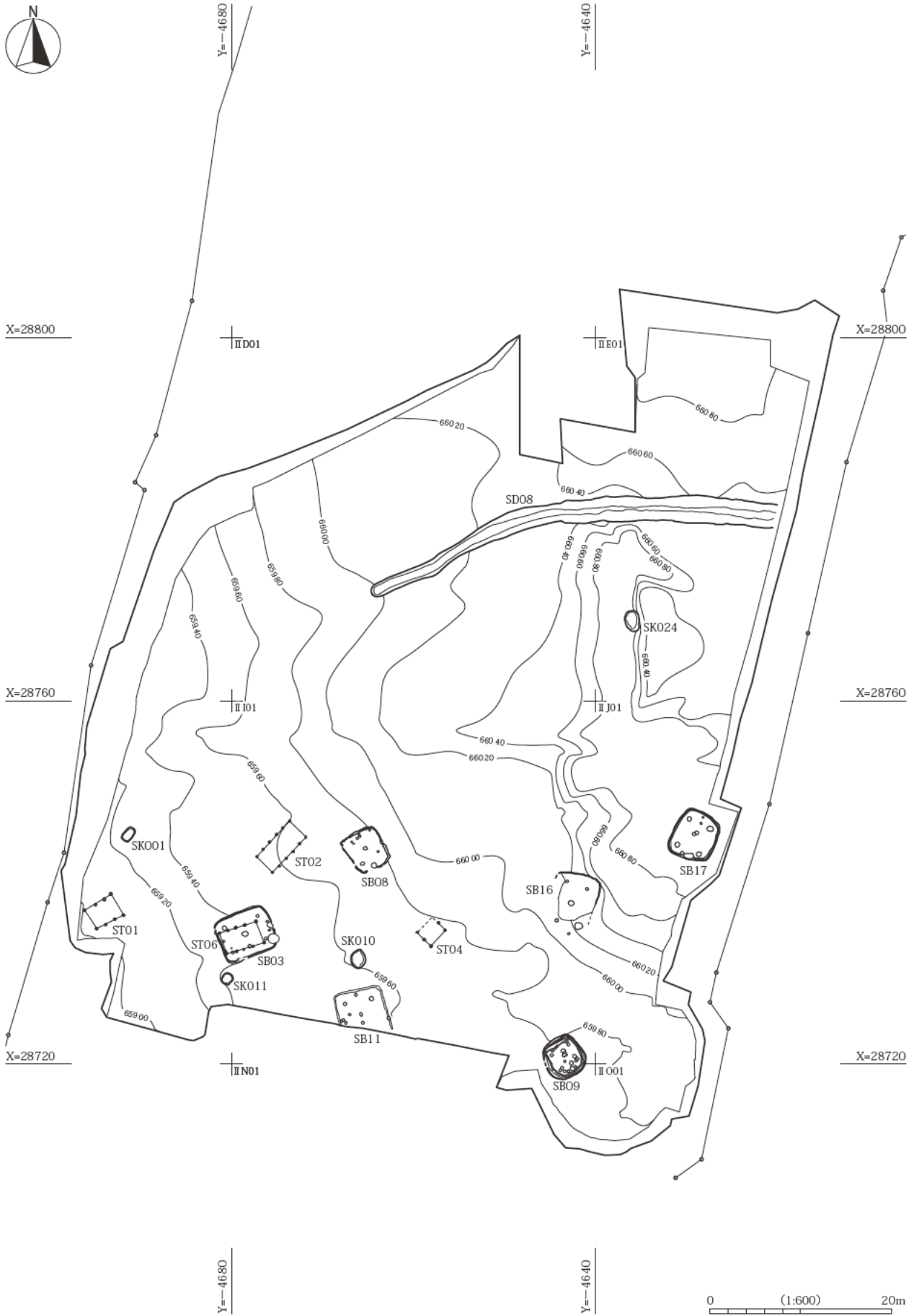
千曲市 八王子山B遺跡例

0 (1:4) 10cm

人形土器B類

## 森平遺跡の調査成果

- 1 所在地 佐久市大字横和
- 2 主な時代 弥生時代、古墳時代、中世、近世
- 3 主な遺構 弥生時代（竪穴住居跡 22 軒、掘立柱建物跡 6 棟、土坑 100 基、焼土跡 3 基、溝跡 1 条）  
古代以降（溝跡 10 条）
- 4 主な遺物 縄文土器、弥生土器、土師器、ミニチュア土器、土器片加工円板、太型蛤刃石斧、  
扁平片刃石斧、磨製石鎌、磨製石鎌未製品、石錐、楔形石器、石槌、石皿、管玉、  
鉄、（寛永通宝）
- 5 特記事項 湯川低位段丘上の掘立柱建物跡を伴う弥生時代の集落。
- 6 成果要約 森平遺跡は湯川から数十mという至近距離の低位段丘（第1河岸段丘）に立地し、弥生時代中期を主体とする集落で、集落東西と南側は湯川の蛇行流路、北側は環濠で区画され、後期前半までの遺構が検出されている。うち約半数は焼却を伴う竪穴住居跡であり、各時期1～数棟の掘立柱建物跡が伴う。それぞれの住居跡の床面近くからは多くの土器が出土したが、うち1軒の住居跡の床面出土の甑の中から、渡来系弥生人の歯が出土したことは佐久平初の発見となった。

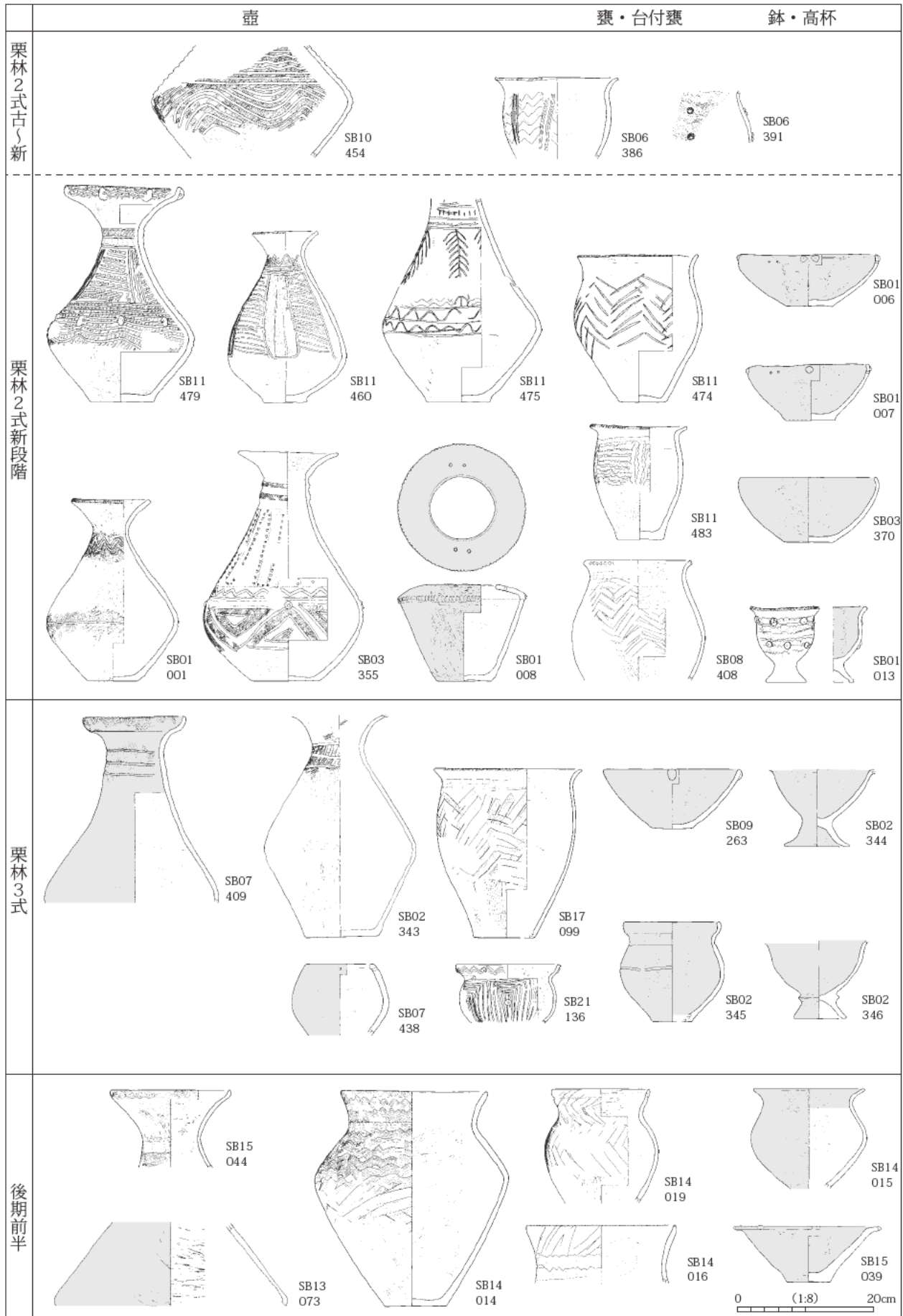


栗林 2 式新段階・栗林 2～3 式 遺構分布図





栗林3式・栗林2～3式 遺構分布図

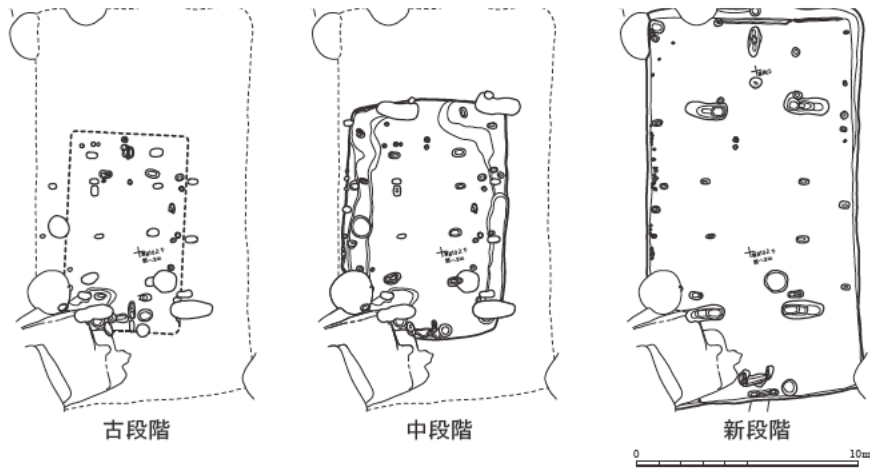


土器変遷図

## 西近津遺跡群の調査成果

- 1 所在地 佐久市岩村田字西一里塚 1614-2 ほか
- 2 主な時代 弥生時代、平安時代～近世以降
- 3 主な遺構 縄文時代（竪穴住居跡 2、屋外埋設土器 1）  
弥生時代（竪穴住居跡 110、円形・方形周溝墓 19、土坑墓 3、木棺墓 3、溝跡 1）  
古墳時代（方形周溝墓 3）  
古墳・奈良・平安時代（竪穴住居跡 432、掘立柱建物跡 122、方形区画状遺構 1、木棺墓 3、溝跡 5）  
中世（竪穴建物跡 4、井戸跡 3、溝跡 14）、近世（土坑墓 1）、縄文時代～中世（土坑 2467 基）
- 4 主な遺物 縄文土器、打製石鏃、打製石斧、石匙、弥生土器、人形土器、土器片加工板、磨製石鏃、勾玉、みがき石、磨石、敲石、刃器、土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、紡錘車、帯飾具、砥石、カマド材、鉄製品（焼印、刀子、鉄鏃、鎌、苧引具、鍬・鋤先ほか）、銅製品（銅印、銭貨、耳環、帯先金具）骨製品・骨（ヒト、シカ、イノシシ、ウマ、ウシほか）
- 5 特記事項 弥生時代後期の超大型竪穴住居跡（全長 18 m 超）。同期の集落を区画する大溝。古墳時代前期古墳 3 基。奈良時代から平安時代の文字を記された土器多数出土。「美濃国」刻印・「郡」ヘラ書・「大井寺」墨書・「大井」ヘラ書・墨書ほか。平安時代の銅製私印、墨書土器と印字が共通する焼印の発見。平安時代末から中世の区画溝からウマ・ウシ骨多数出土。
- 6 成果要約 浅間山麓に形成された田切地形の末端近く、標高 705 ～ 711 m の台地上に立地する。北側は小諸市境を流れる涌玉川に切られ、南側は濁川の氾濫低地に向かって緩やかに傾斜する。表土は薄く、現旧耕作土下の同一面上で全ての時代の遺構を検出する。検出面下は当地を厚く覆う浅間第一軽石流の堆積物である。集落は縄文時代から中世鎌倉時代まで複合する。縄文時代の集落は中期から後期、弥生時代は後期、古墳時代以降は古墳時代中期から奈良時代、平安時代まで連続し、中世集落は鎌倉時代に該当する。墓跡としては弥生時代後期の集落に伴う円形・方形周溝墓と土坑墓、木棺墓がある程度のまとまりを持つ。古墳時代前期には湧玉川南側の崖上に方形周溝墓 3 基が分布する。平安時代には木棺墓が散見され、近世には土坑墓が 1 基確認されている。弥生時代後期の集落は、佐久地域で最大規模である。特に全長 18 m を超える竪穴住居跡は、当該期の国内最大級である。集落後半期には、東西に区画する大溝が計画的に掘削され、集落構造の変化が捉えられる。また骨角製品の製作痕跡のある竪穴住居跡も発見されている。古墳時代中期には台地北側に小規模な集落が形成される。古墳時代後期以降、集落は台地全体に広がり奈良時代、平安時代まで継続する。集落の構成

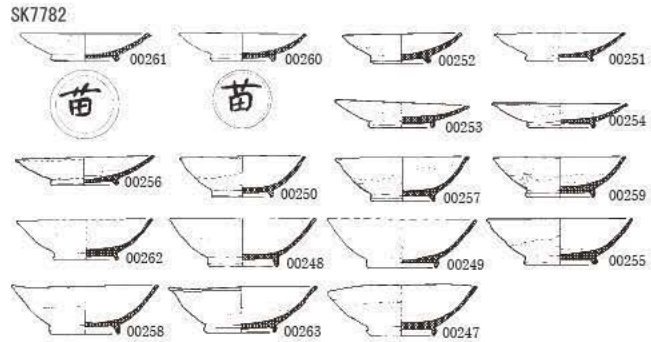
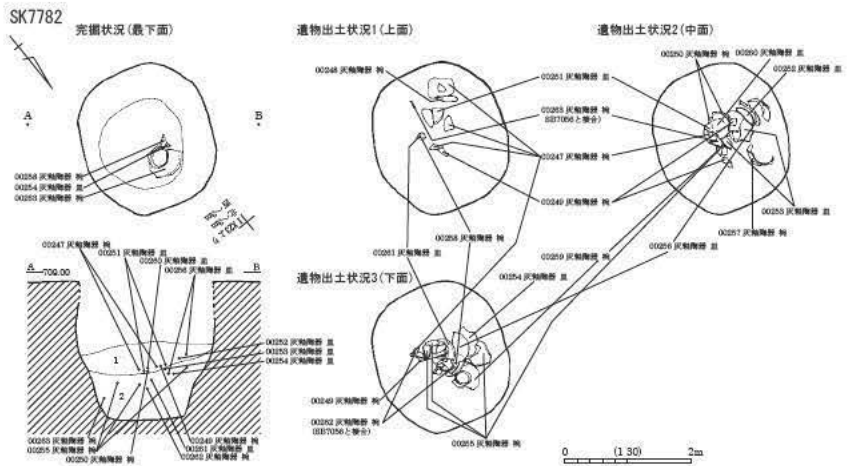
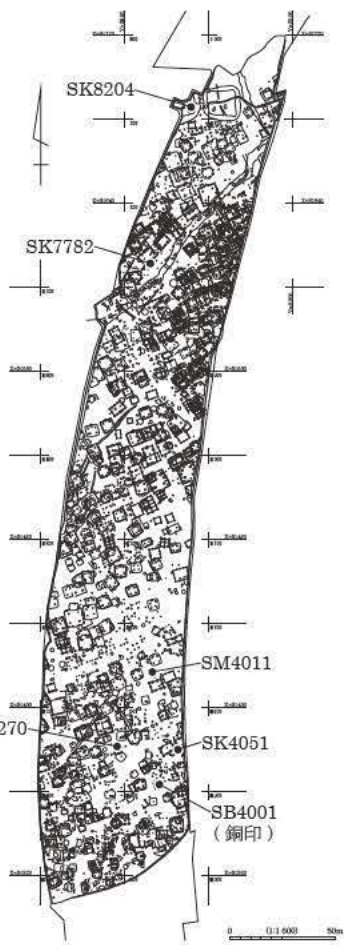
主体は竪穴住居跡と掘立柱建物跡である。出土遺物としては金属製品が増加し、銭貨、文具、武具、農具、工具など多岐にわたる。特に平安時代には青銅製の四文字私印、鉄製の焼印が出土している。土器には文字の記された土器も多く出土している。「美濃国」刻印須恵器、「郡」ヘラ書須恵器、「大井寺」墨書土師器、「大井」ヘラ書・墨書須恵器・土師器といった国名や郡郷などに関わる文字のほか、現在は判読できない特殊文字を記した墨書土器も多数出土している。銅印、焼印、文字のある土器によって、本跡が郡家や郡寺が設置された古代佐久郡の中心地に近い可能性がより濃厚となっている。また特殊文字を記した土器や焼印は、地方社会における文字を用いた儀礼行為の具体例を提示している。平安時代後期以降、集落は途絶え計画的な溝跡で区画する新たな土地利用がはじまる。溝内には解体廃棄された牛馬の骨が多数発見され、その分析から当地の牛馬利用の実際が見えてきている。旧公団との照合から区画溝は明治時代まで畑地区画として存続していた可能性がある。



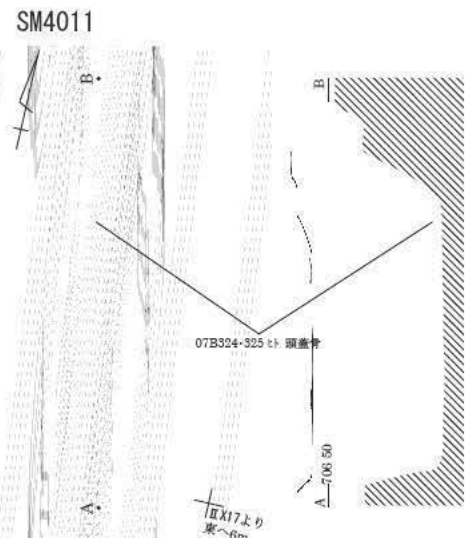
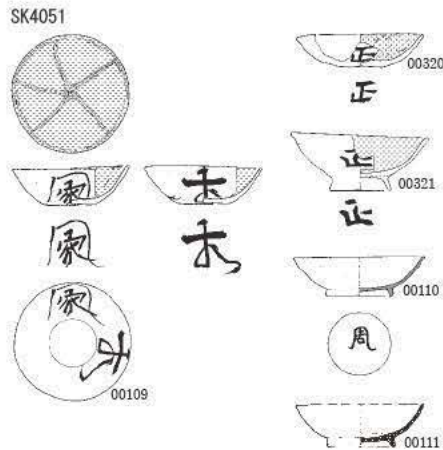
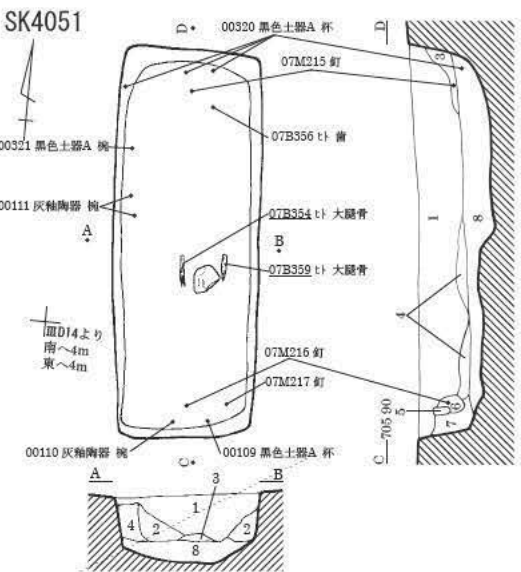
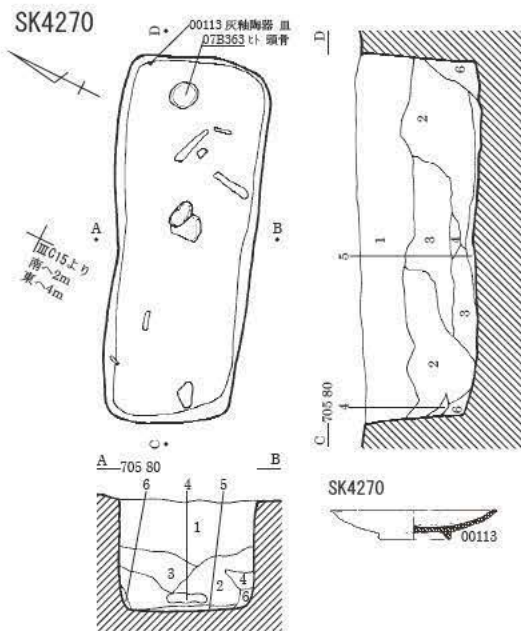
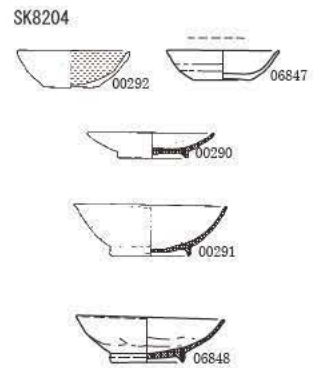
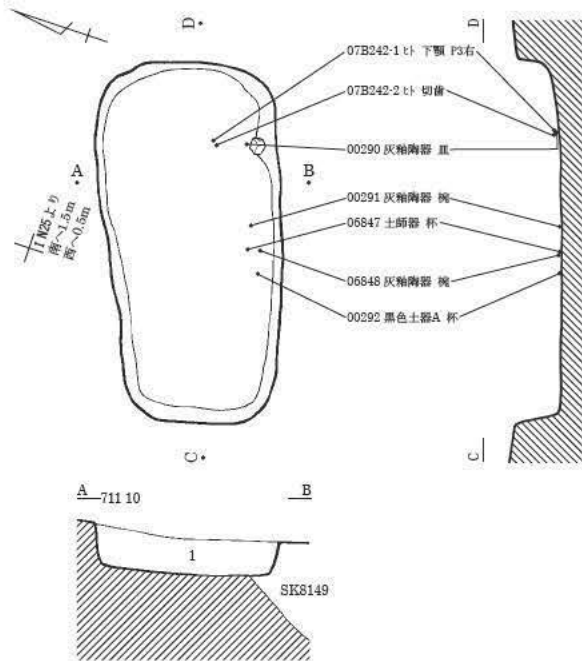
超大型竪穴住居跡 SB0067 建替え状況



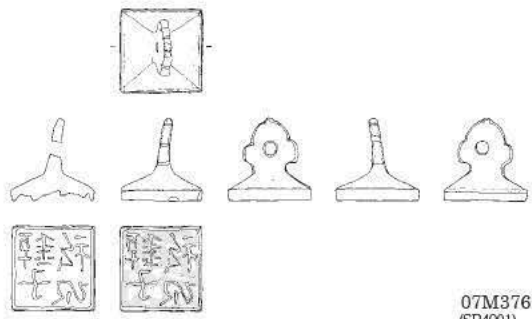




SK8204



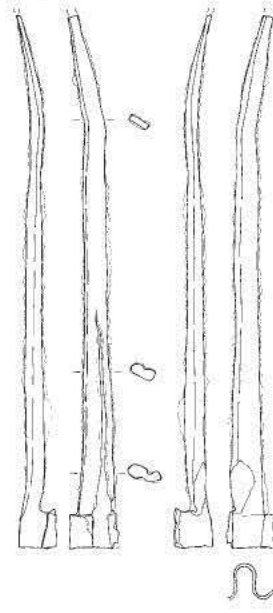
銅印



07M376  
(SB4001)

0 1(3) 10cm

焼印

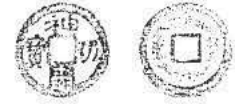


07M218  
(SB4025)

銭貨 (皇朝十二銭)



07M305 陸平永寶  
(SK8210)

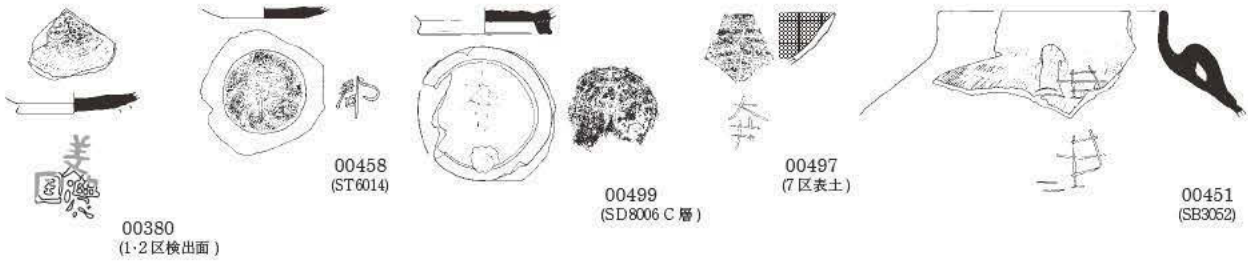


08M022 神功開寶  
(SD8006 I Y01)

0 1(2) 5cm

刻印土器

刻書(へら書)土器



00380  
(1-2区検出面)

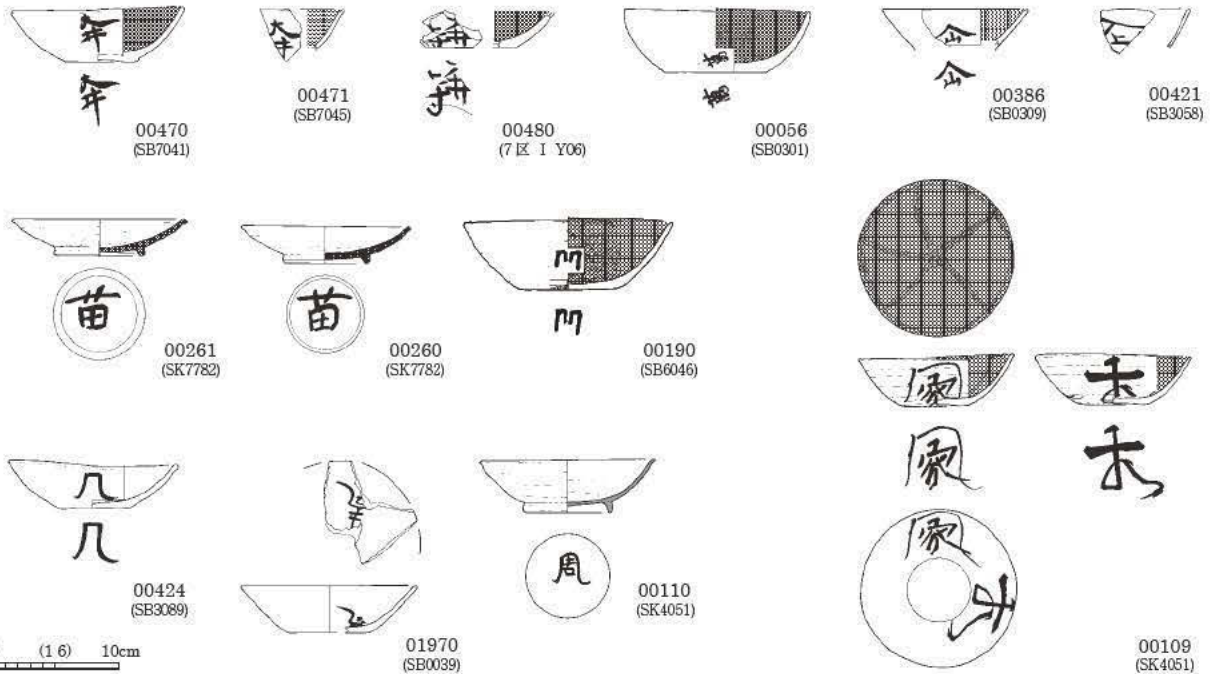
00458  
(ST6014)

00499  
(SD8006 C層)

00497  
(7区表土)

00451  
(SB3052)

墨書土器



00470  
(SB7041)

00471  
(SB7045)

00480  
(7区 I Y06)

00056  
(SB0301)

00386  
(SB0309)

00421  
(SB3058)

00261  
(SK7782)

00260  
(SK7782)

00190  
(SB6046)

00424  
(SB3069)

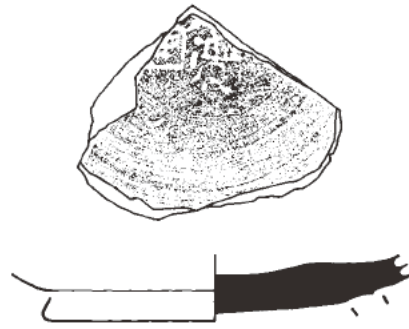
01970  
(SB0039)

00110  
(SK4051)

00109  
(SK4051)

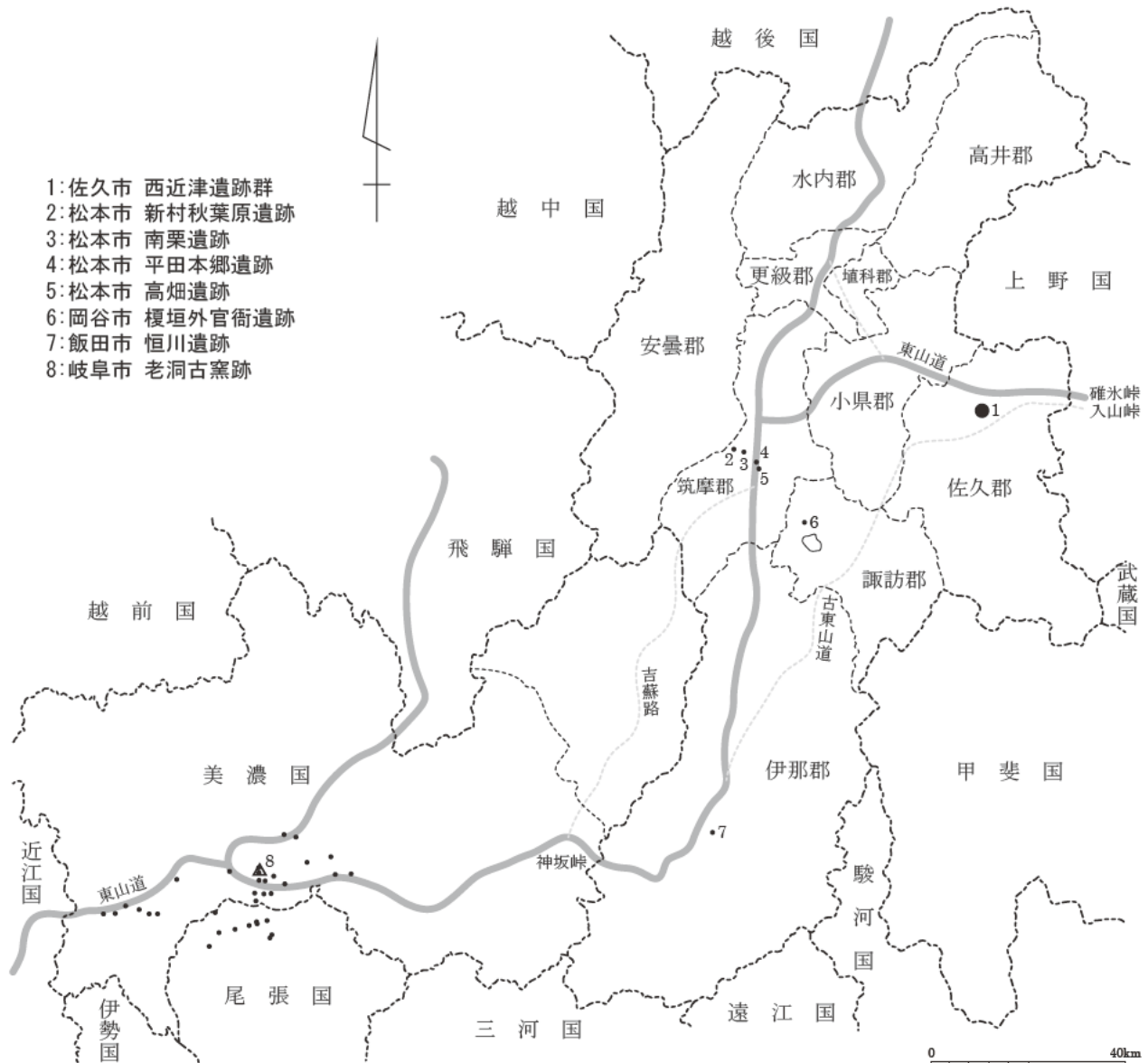
0 1(6) 10cm

古代の主な文字資料



0 (12) 5cm

「美濃国」刻印須恵器と刻印部の復元



「美濃国」刻印土器の分布状況（岐阜県・愛知県・長野県）

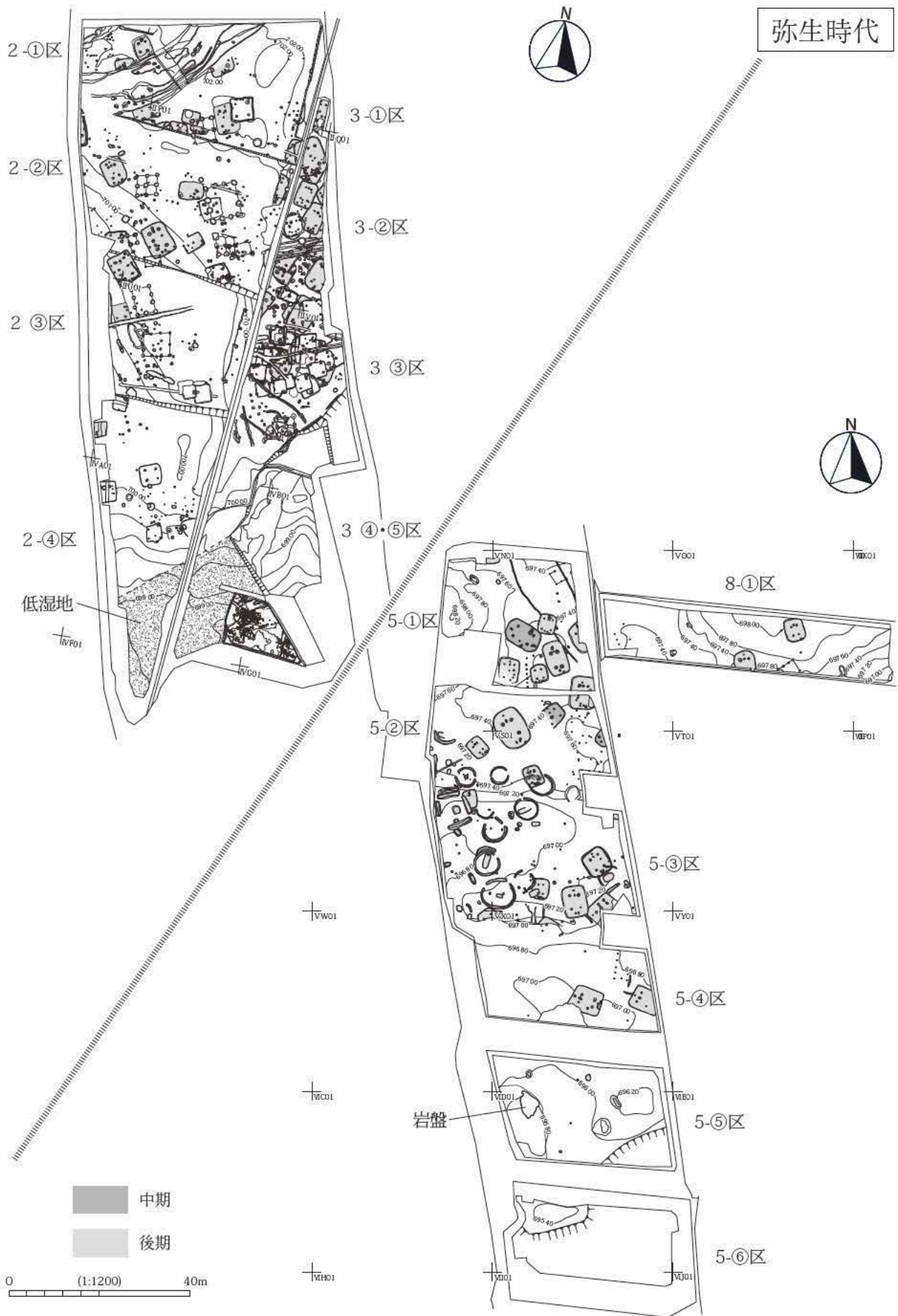
## 周防畑遺跡群の調査成果

- 1 所在地 佐久市長土呂字大豆田 1705 ほか
- 2 主な時代 縄文時代、弥生時代、奈良・平安時代
- 3 主な遺構 縄文時代（陥し穴 1）  
弥生時代（竪穴住居跡 64、円形・方形周溝墓 18、土坑墓 5、土器棺墓 4）  
奈良・平安時代（竪穴住居跡 41、掘立柱建物跡 13）
- 4 縄文土器 縄文土器、弥生土器、打製石斧、磨製石斧、磨製石鏃、勾玉、管玉、ガラス小玉、土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、青磁、砥石、鉄製品（刀子、紡錘車）、銭貨
- 5 特記事項 土坑墓から 3 連銅釧出土。円形周溝墓の周溝の縁からヒスイ製勾玉出土。土器棺墓の中から管玉 6 とガラス小玉 23 が出土。奈良時代の竪穴住居跡から須恵器短頸壺や土師器鉄鉢形土器、平安時代の土坑から墨書されたものを含む灰釉陶器がまとまって出土。遺構外で須恵器獸脚風字硯や川原寺式軒丸瓦が出土。
- 6 成果要約 周防畑遺跡群は田切りの一つである濁り川の田切り谷に面した台地が途切れた先の緩傾斜地に立地する。周防畑遺跡群では、弥生時代の集落と墓跡、奈良～平安時代の集落が検出された。弥生時代中期の集落は小規模で、竪穴住居跡 3 軒が南部の 5 区で検出されている。弥生時代後期になると、5 区の集落が拡大し、新たに北部の 2・3 区にも集落が形成されるとともに、5 区の集落の南西部に隣接して墓域が形成される。この墓域内の円形周溝墓の周溝外から国内最大級のヒスイ製勾玉、土坑墓の一つから 3 連の銅釧が出土し、2 区の土器棺墓からは滑石製勾玉 6 個とガラス小玉 23 個が出土している。古代の集落は北部の 2・3 区にみられる。薬壺と思われる須恵器短頸壺や土師器鉄鉢形土器が竪穴住居跡から出土し、遺構外で須恵器獸脚風字硯や川原寺式軒丸瓦が出土するが、これ以外に硯と帯金具や皇朝十二銭の出土はなく、灰釉陶器や墨書土器の出土も少ない。近辺にあったと考えられる佐久郡衙に関連するとしても、群雑任等の集落と思われる。その中で、10 世紀後半に成立した 2 区北部の掘立柱建物群の地区では、墨書を含む灰釉陶器と灯明具を多数使用する祭祀を行っており、有力者の屋敷地と思われる。



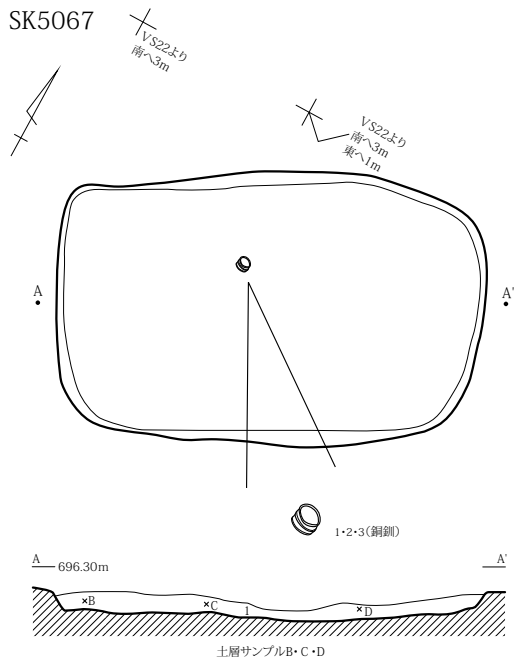


周防畑遺跡群グリッドと調査区設定図



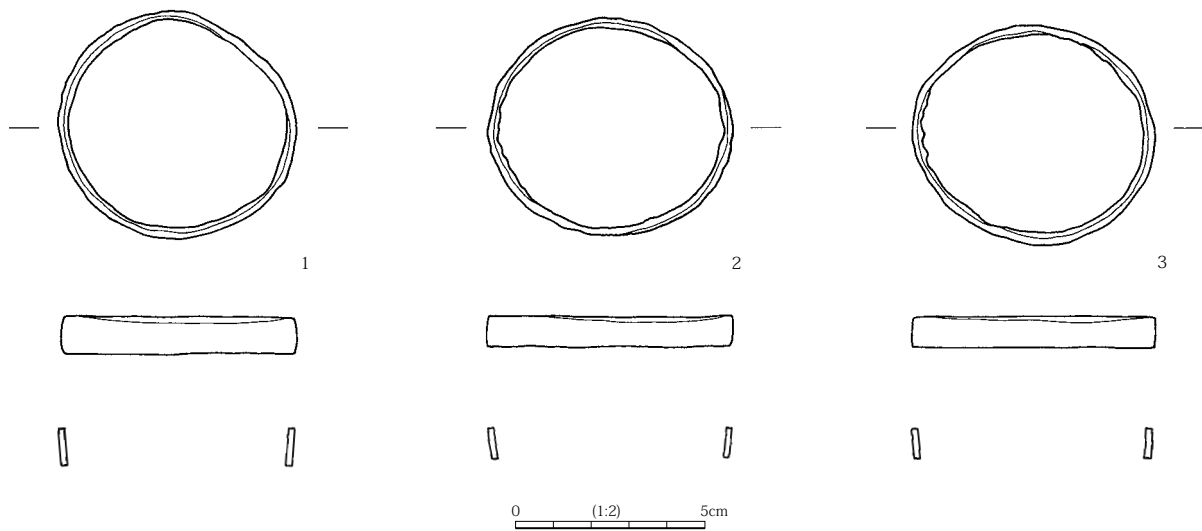
弥生時代の遺構分布図

SK5067

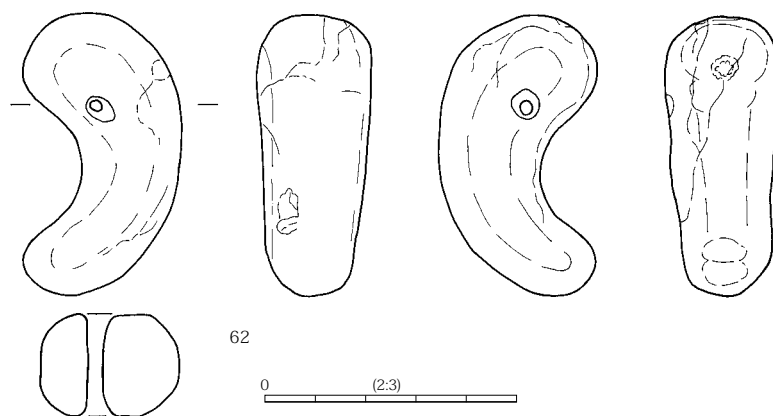


SK5067

1 1cmほどの軽石粒を少量含む黒褐色土(10YR2/2) しまり強、粘り弱



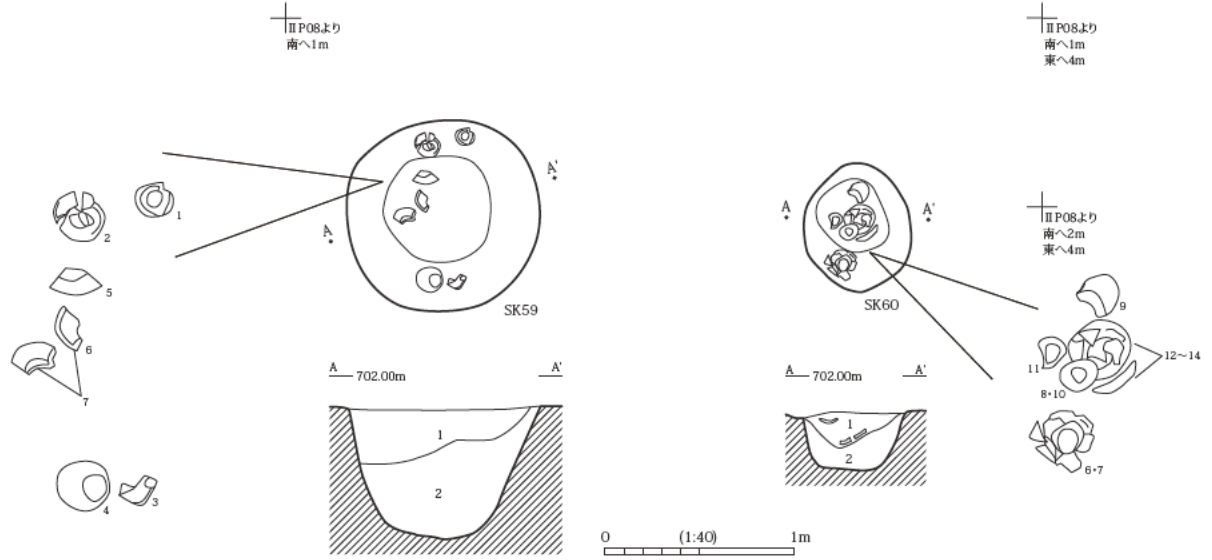
5067号土坑 遺構図・遺物図



遺構外出土勾玉



SK59・60

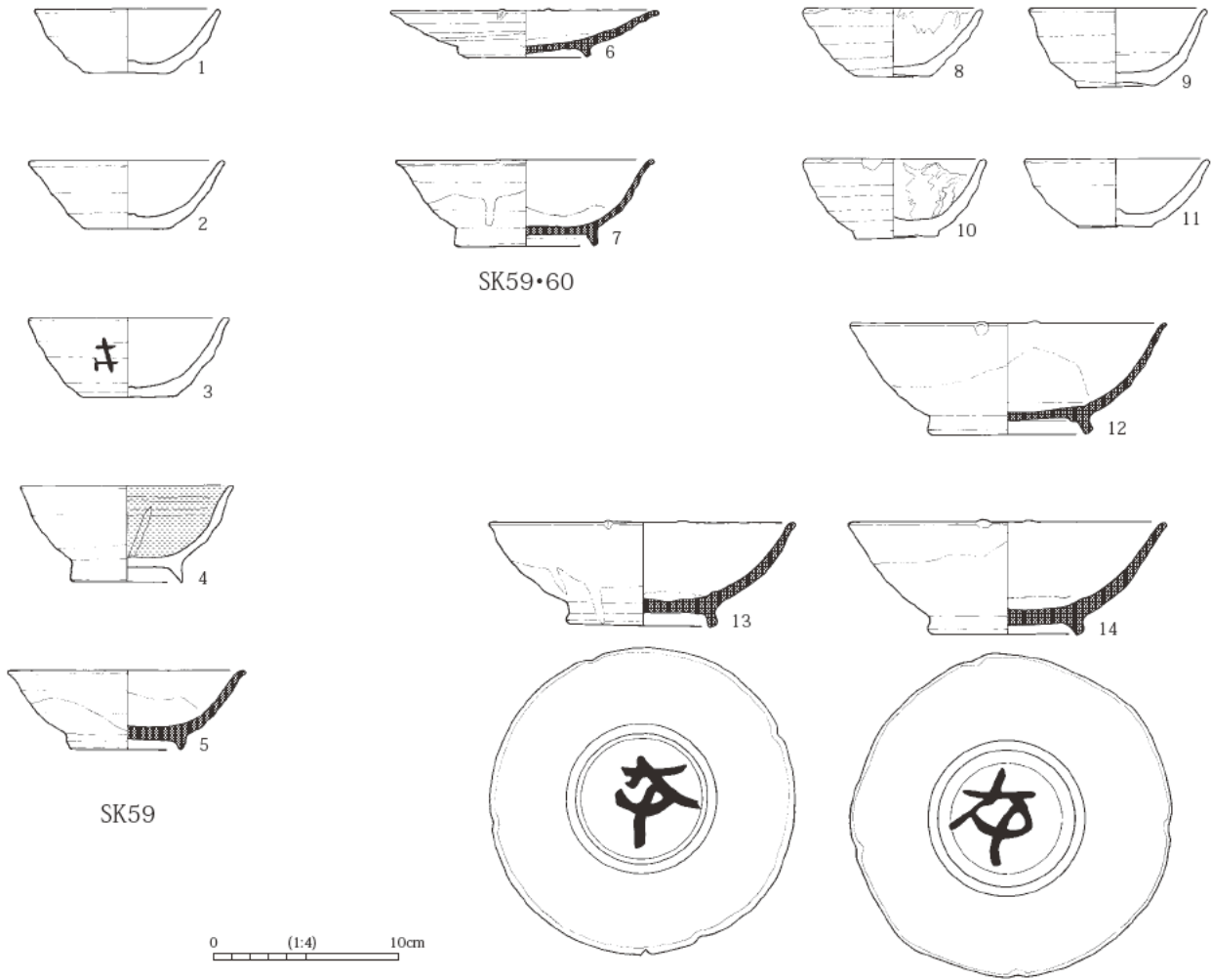


SK59

- 1 0.1~0.5cmの軽石粒、黄褐色土粒を含む黒褐色土(10YR3/1)
- 2 0.1~0.5cmの軽石粒、黄褐色土粒を含む褐灰色土(10YR4/1)

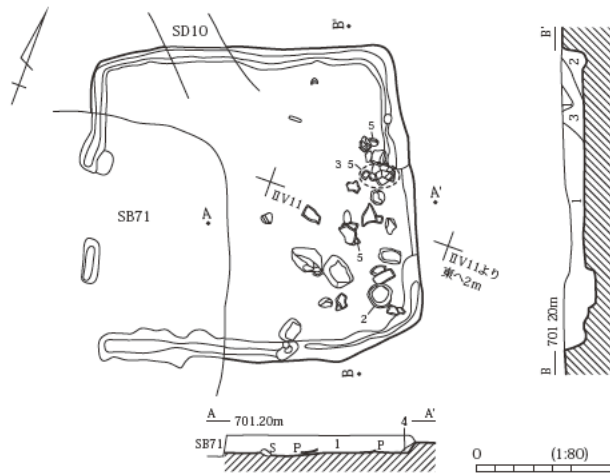
SK60

- 1 0.1~0.5cmの軽石粒、黄褐色土粒を少量含む黒褐色土(10YR3/1)
- 2 明黄褐色土(10YR6/8)

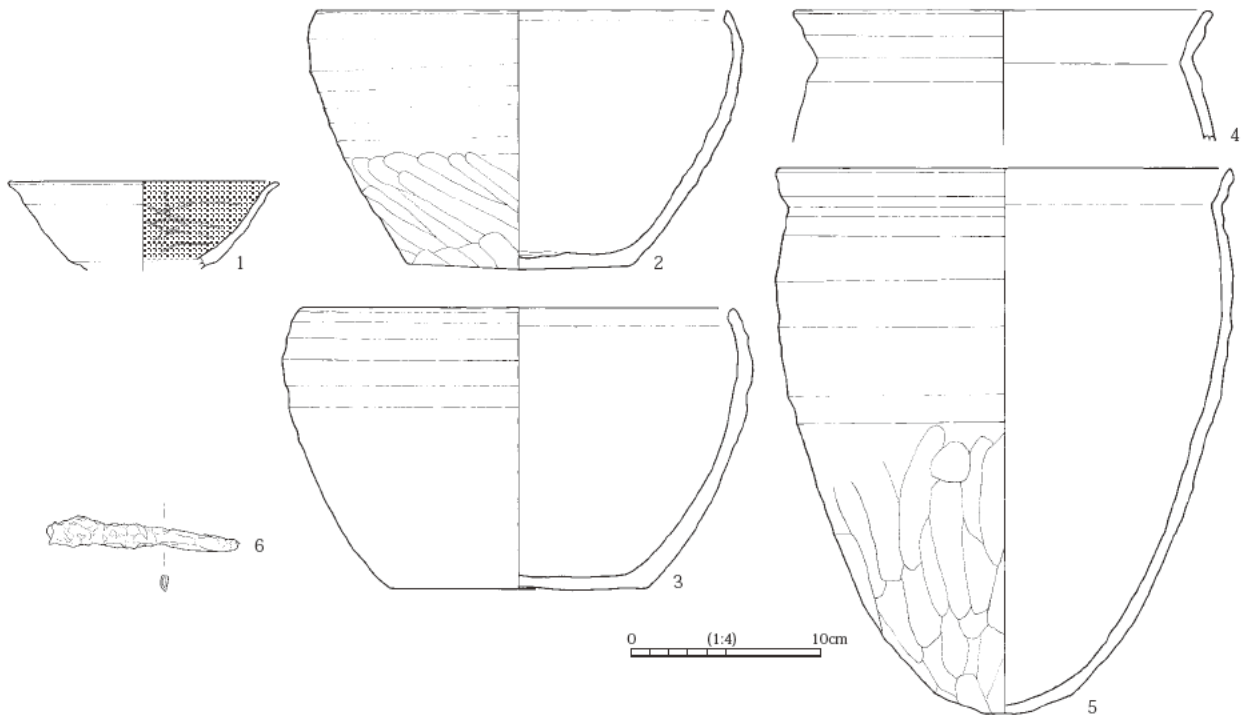


59・60号土坑 遺構図・遺物図

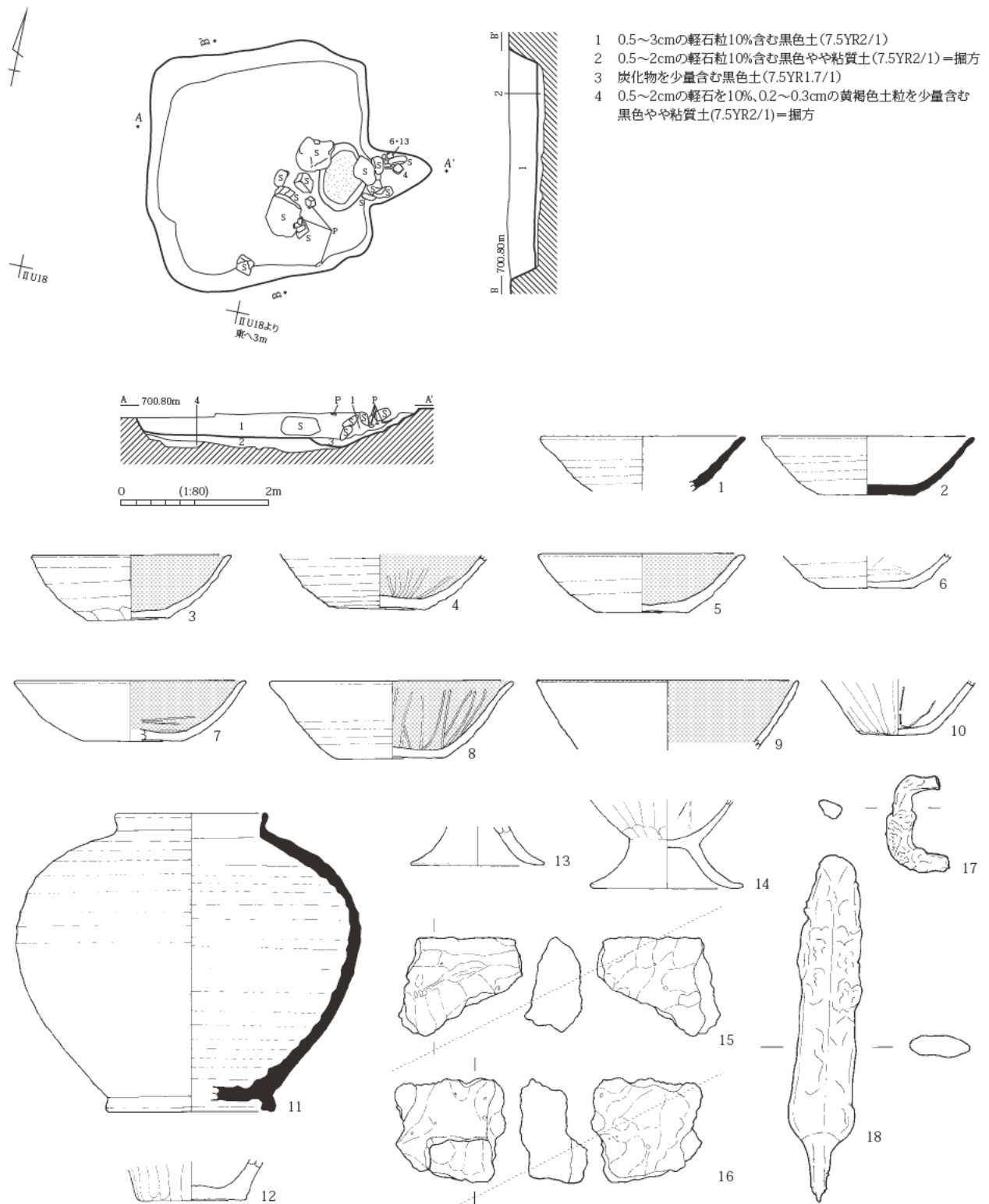




- 1 細かい黄褐色土粒、0.5cm以下の軽石粒を5~7%含む暗褐色~黒褐色土 (10YR3/3~2/2)
- 2 黄褐色土粒を少量、5cm大の軽石ブロックを2~3%含む黒褐色土 (10YR2/3)
- 3 黄褐色土粒を少量、0.5cmほどの軽石粒を2~3%ほど含む黒褐色土 (10YR2/2)
- 4 黒色炭層 (10YR1.7/1)



72号住居跡 遺構図・遺物図



80号住居跡 遺構図・遺物図

# 信州人の一万年 骨から歴史をみる

## 信州人の一万年のまとめ (1)

人骨が出土している遺跡は200程度と思われる。  
129遺跡の報告書(など)からのまとめ。

- ① 旧石器時代人は見つかっていない。
- ② 縄文時代早期には、山間部に多くみられる「きやしゃやな」縄文時代人がいた。  
栃原岩陰遺跡、湯倉洞窟遺跡

## 信州人の一万年のまとめ (3)

- ⑤ 古墳時代には東信・北信で多数の人骨が知られている。  
大室古墳, 他多数
- ⑥ 古代から中世にかけて、火葬人骨が多くなっている。
- ⑦ 松原遺跡など(111例)  
古代以降、食糧事情、生活事情が変化している(歯の咬耗が少ない、扁平脛骨が少ないなど)。



## 信州人の一万年

骨から歴史をみる

2015.11.28 佐久市

## 信州人の一万年のまとめ (2)

- ③ 縄文時代後晩期になると、いわゆる典型的な縄文人が分布していた。生活形態などの変化で細かな変化が多様な縄文人が出現する。  
北村遺跡、七五三掛遺跡、宮崎遺跡など
- ④ 弥生時代の後半には、渡来系弥生人の影響を受けた人々が入ってきた。  
伊勢宮遺跡、松原遺跡など

## 信州人の一万年のまとめ (4)

- ⑧ 中世には間違いないく渡来系の人々の影響を受けた人達がいた。平坦な顔の人々になっている。
- ⑨ 近世になると例数は少ないが、江戸町民的な人々が県内でも見られる。
- ⑩ 明治維新以後、江戸時代に続いた格差社会が顕著でなくなり、形態が平均化してきた。

## 骨や歯からわかること (1) 個体編

- ① 骨の部位
- ② 種類 (ヒトの場合は“人種”)
- ③ 年齢 (子供か大人か、成長)
- ④ 性別 (性に伴う形のちがい)
- ⑤ 体つき・顔つき
- ⑥ くせ (習慣)

## 骨や歯からわかること (2) 個体編

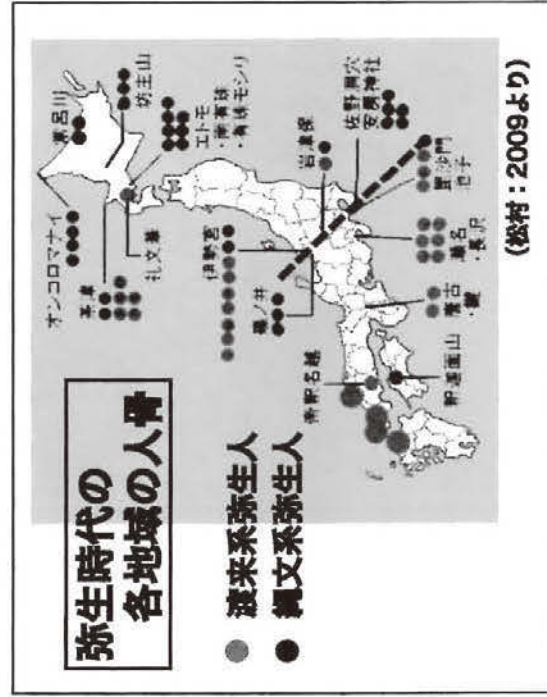
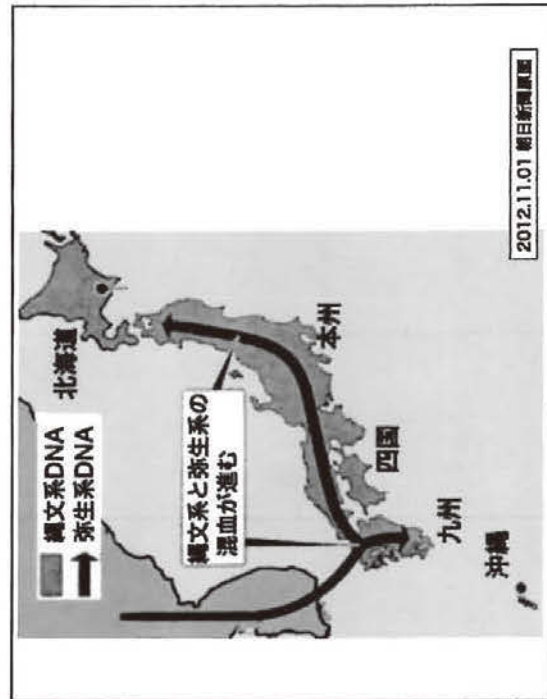
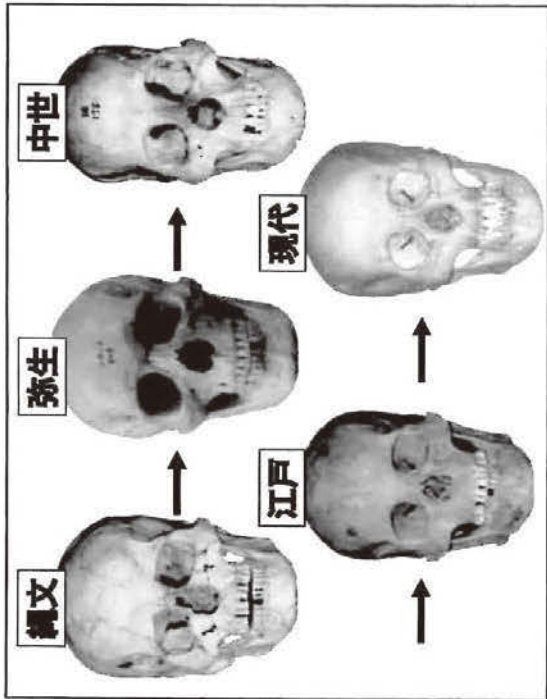
- ⑦ 病氣 (骨に残るもの)
- ⑧ 死因
- ⑨ 何を食べたか
- ⑩ 栄養状態
- ⑪ 時代的特徴
- ⑫ 社会的地位

## 多数個体が出土すると 集団編

なにがわかるか

- ① 集団の習慣・風習
- ② 人口推定
- ③ 平均寿命
- ④ 男女の比率





◆お問い合わせ先◆

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野県長野市篠ノ井布施高田 963-4

TEL026-293-5926 FAX026-293-8157

ホームページ <http://naganomaibun.or.jp/>